

**製品名: Chk2 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21455**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:61kD;Observed MW:61kD

**抗原情報**

遺伝子名	CHEK2
別名	CHEK2;CDS1;CHK2;RAD53;Serine/threonine-protein kinase Chk2;CHK2 checkpoint homolog;Cds1 homolog;Hucds1;hCds1;Checkpoint kinase 2
遺伝子 ID	11200.0
SwissProt ID	O96017
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

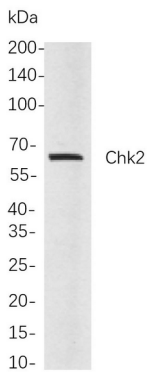
**背景**

細胞局在: 核。DNA 損傷および複製阻害に対する応答として、重要な細胞周期調節因子の制御を通じて細胞周期の進行が停止する。

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞周期チェックポイント調節因子であり、腫瘍抑制因子と推定される。DNA 損傷に対する活性化に必須のフォークヘッド関連タンパク質相互作用ドメインを有し、複製阻害および DNA 損傷に対する応答として速やかにリン酸化される。活性化されると、コードされるタンパク質は CDC25C ホスファターゼを阻害し、有糸分裂への移行を阻害することが知られている。また、腫瘍抑制タンパク質 p53 を安定化させ、G1 期での細胞周期停止をもたらすことが示されている。さらに、このタンパク質は BRCA1 と相互作用してリン酸化することで、BRCA1 が DNA 損傷後の生存を回復することを可能にする。この遺伝子の変異は、浸透率の高い家族性癌表現型であるリ・フラウメニ症候群と関連付けられている。この表現型は、通常、遺伝性変異に関連する。

## 研究分野

## 画像データ



K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析 (Chk2 ウサギ mAb を使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用しました。